グリーンハウス宏喜苑

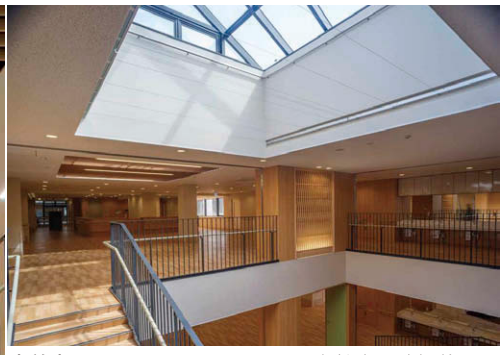
広島県福山市中心部で介護サービスを提供してきた介護老人保健施設“グリーンハウス宏喜苑”は、施設の老朽化対策として建替え工事を行い、2020 年夏、再スタートしました。地上 6 階建ての新築施設では LED 照明を全館に採用し、意匠性の高い建築空間との一体化や高齢利用者への配慮など、福祉施設の照明設計としてさまざまなアイデアが盛り込まれています。

高齢者が生きがいを感じられるような体と心のケアサービスを提供する地域密着型の福祉施設、グリーンハウス宏喜苑。入所者数 90 名の新築された建屋は、在宅復帰を支援するさまざまなサービスを提供できる空間構成となっており、デイケアやデイサービスなどに大空間を利用した充実のケアプログラムを実施。アクアジムを備えたプールや温浴・ジャグジー施設では、リハビリフィットネスも提供しています。

照明にはすべてにLED器具を採用。空間のつながりを意識した光色、木質素材の照明演出、光庭・トップライトの建築空間と一体化した照明など、意匠性が高く内観・外観ともに周辺と調和するような工夫が随所になされています。プールでは明るく、まぶしさを感じにくい間接照明方式（天井面反射）が採用され、開放的なリハビリ室では明るさセンサーによる照明制御により、利用者に優しく、省エネに配慮した環境が創り出されています。

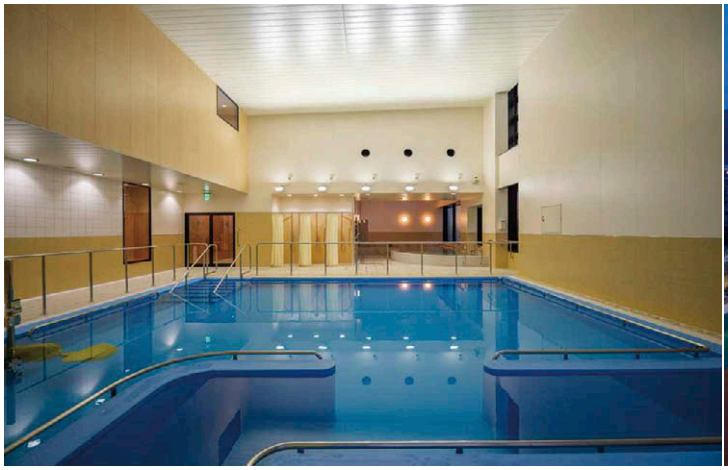
福祉施設ならではの複合的な用途に対応できる空間づくりに、さまざまな照明手法を活用。

デイケア　吹抜けの大空間には、木質の壁面や天井面ルーバーを施しており、照明を効果的に組み合わせることで、親しみのある優しい空間を演出。天井ルーバー部にはベースライトの長尺連結タイプを採用し、LED バー端部までの発光によりシームレスなラインを形成。



療養室フロア　トップライトからの自然光を積極的に取り込み、天井ルーバーや室内照明を協調させて快適な空間を創出。

食堂とスタッフステーション　空間的なつながりを意識して、ランプの色温度は安らぎをあたえる温白色で統一。



プール　利用者がグレアを感じにくいようプール用投光器を天井面へ向けて上向き配置し、高天井面からの反射光により照度を確保。

屋上リハビリ庭園　低床の庭園灯とトップライトから洩れる屋内のあかりにより、周りを優しくライトアップ。